

いつも機械をベストコンディションに!

トラクタ セルフメンテナンス

お客さまご自身で行なう 点検整備ポイント



大型トラクタ版

地域環境 への配慮

(自然への投棄、放置はしないで下さい)

廃油処理について

- * 抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し、処理してください。
- * 廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。



使用済廃棄物の処分について

廃油や冷却水などの廃棄物をむやみに捨てるとう環境汚染になります。機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先、又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

焼却は原則禁止です。

- ほ場での稲わら等の焼却は焼却禁止の例外ですが、その他の廃棄物(廃ビニール、タイヤ等)をいっしょに焼却するのは生活環境の保全上著しい支障があり禁止されています。

日常点検、定期点検をお勧めします。

- 日頃の点検整備により機械の調子を整えることは、排気ガスを良い状態に保つことをはじめ、故障による部品交換発生、自然へのオイル漏れ等を防止し、環境保全にもつながります。

点検作業を安全にするために



注意

事故防止のため、取扱説明書をお読みいただき、よく理解して正しい点検作業を行ってください。

始動時

- エンジンの始動は、運転席に座り各変速レバーを中立にしてください。
- 機械周辺の人や物に十分注意し、駐車ブレーキペダルをロックしてから始動してください。
- 屋内で始動する時は、窓・扉を開け、外気が十分に入るようにしてください。

点検・整備時

- エンジンを止め、機械の各部が停止してから行ってください。
- 高温部には触れないように注意してください。
- 駐車および点検などで運転席を降りる時は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いてください。
- 3点リンク作業機(ロータリ)を持上げて点検作業を行なう時は必ず油圧ロックをして下さい。
- 運転による確認は平坦な場所で行い、駐車ブレーキをかけ、各変速レバーを中立にして確認を行ってください。走行による点検・整備時は、周囲に十分注意して行ってください。

その他

- 火災の危険がありますので、シートカバーは機械が冷えてから掛けてください。
- 届出をしていない場合は公道走行ができないので、トラックに乗せて運搬してください。

点検にトライしよう!

エンジン部

- 1 エンジンオイル P3
- 2 エンジンオイルフィルタ (カートリッジ) P3
- 3 ファンベルト P4
- 4 ラジエータ(防虫網) P4
- 5 ラジエータホース P5
- 6 冷却水・不凍液 P5
- 7 燃料フィルタカートリッジ... P6
- 8 セパレータ P6
- 9 燃料ホース P7
- 10 エアクリーナエレメント P7
- 11 バッテリ P8

走行部

- 12 タイヤ P9
- 13 ブレーキ P9
- 14 クラッチ P10
- 15 ミッションオイル P10
- 16 油圧オイルフィルタ (カートリッジ) P11
- 17 前部デフケース パワステシリンダ P11

ロータリ部

- 18 オイル量点検と交換 P12
- 19 耕うん爪 P12

キャブ仕様

- 20 冷媒ガス P13
- 21 エアコンエアフィルタ P13

パワクロ仕様

- ① 日常点検 P14
- ② グリースアップを行ないましょう P15



※このマニュアルは、SMZ955を基準として構成しています。
型式・シリーズによって仕様が異なりますので、
取扱説明書をお読みいただき応用してください。

12 タイヤ

? タイヤの役割は?

走行移動のための装備

機体および運転者への緩衝



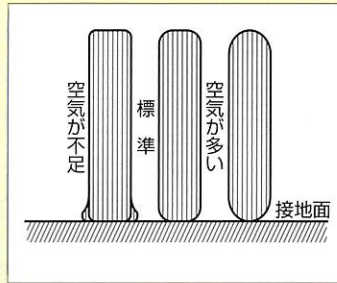
メンテナンスをしないと

! こんな不具合がおこります

- **パンクの原因**となり走行中の事故につながります。
- **操舵性が悪く**なります。
- **けん引力不足の原因**となります。



点検方法



- 傷や摩耗の確認。
- 空気圧の確認。
- タイヤホイールの振れの確認。
- 取付けボルトの点検

メンテナンス

- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守って下さい。**空気の入れすぎは、タイヤ破損のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因**になります。
- タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は必ず購入先へご相談ください。(特別教育を受けた人が行うように、法で決められています)

13 ブレーキ

? ブレーキの役割は?

制動装置



メンテナンスをしないと

! こんな不具合がおこります

- **機体が止まらず**事故の原因となります。
- ブレーキの**片きき**により**転倒や事故**の原因となります。



点検方法



- 連結金具を外して手で左右のペダルの遊び量が同じであることの確認。(遊び=30~45mm)(左右段差=5mm以内)
- ブレーキペダルを踏んだとき、駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認。

遊び



メンテナンス

- 左右のペダルの踏み込み量が異なる場合は購入先に連絡してください。



- 目安として**100時間**ごとの点検・調整をおすすめします。詳しくは取扱説明書を参照してください。

